

資料 17

警備会社からの聴き取り書（株ニシカン）

委員会までの事前聴き取り

1. 日 時 平成 13(2001)年 8 月 21 日（火） 14:50～19:55
2. 場 所 株ニシカン 大阪支社
3. 聴取りをした相手
- | | | |
|-------|----------|----|
| 株ニシカン | 業務部長兼支社長 | N |
| 株ニシカン | （遊撃隊隊長） | Y1 |
| 株ニシカン | （交信記録係） | Y2 |
4. 応 対 明石市民夏まつり事故調査委員会 調査班

【経歴等】

- Q ・ Nさんについては、商工観光課長であるとか、カウントダウンの県の担当者、同業者から、信頼のできる、仕事もよくできる方と聞いている。高い評価を得ているようだが、経歴や経験を聞かせて欲しい。明石の海峡まつり、淡路花博、カウントダウンイベントの他には。
- N ・ 明石の夏まつりの前には東アジア競技大会のメインプレスセンターと情報処理センター、バレーの会場であった大阪城ホール全域を見させていただいた。
- Q ・ 主にイベント警備が多いのか。
- N ・ そうでもない。昭和 52 年から警備業界に入り、常駐警備から交通、雑踏とやってきたが、近年は雑踏とかイベントの警備は難しいので、12 月に行われる神戸ルミナリエでの元町駅から大丸百貨店近郊の一番最初に客が訪れてくるところを任されていた。
- ・ 古くはコンサート関係で、マドンナ、マイケルジャクソンなどの外国人タレントの主な方々の大阪の警備は仕切っていた。その他、スマップをはじめとするジャニーズ系のタレントや、PLの花火、枚方のプラワンカの花火、などの警備も一応仕切らせていただいた。
- Q ・ 今言ったような警備は、責任者として従事したのか。
- N ・ そうだ。ニシカンもそうだが前にいた日本警備通信も、常駐警備や駐車場の警備をやっていた関係上、ジャパンメンテナンスの下請けの仕事が多くなった。その関係で、サティのオープニングの仕事などもやらせていただいた。

【警備依頼】

- Q ・ 夏まつりの警備についての話は、いつ頃あったのか。

N	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月23日に商工観光課長から最初の電話があった。以前に会社が変わったと名刺交換をしていた。「夏まつりをやるので明石に営業所があるか。」と聞かれた。 ・ 明石には連絡所はないが、一度会いましょうかとなって、4月27日に市役所を訪れた。 ・ 夏まつりに当たって、明石に営業所、事務所、連絡所のあるところに参加してもらうので考えて欲しいとのことだったので、前向きに考えると答えた。
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元業者の優先というのが警備業界にもあるのか。
N	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に明石の場合はきつい。明石海峡大橋の完成時、渡り初めのイベント等に参加したが、その時も兵庫県下の会社に下請けを頼んだが、なぜジャパンメンテナンスが元請けかと言われた。明石の花火大会も同じで、明石の業者を取りまとめるように言われた。 ・ その日には他のイベント、神戸のクロモリット、ユニバ競技場でのヴィッセル神戸のホームゲームなどを持っていた。夏休み最初の土曜日でイベントが重なり、あまり人を出せないと商工観光課長や市担当者には言ってあった。
	<p>【契約について】</p>
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市との契約書については、まつりの後の7月26日に作製されたと聞いている。 ・ 通常、警備を頼む場合、算定は人数×単価となるのか。
N	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本契約はそうだ。それと契約書にあるように実績精算ということになる。設営や撤去に必要な隊員もあり、終わってから精算するのが本当である。 ・ 通常はあらましの計算だけで契約を結んでしまう。
	<p>【警察との検討会】</p>
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月6日の警察との検討会、このときはまだ警備計画はできていないのか。市担当者の作った配置図で説明したということか。
N	<ul style="list-style-type: none"> ・ できていない。
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山陽電鉄の大蔵谷駅の警備について指導されているが覚えているか。
N	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言われたと思う。カウントダウン時に大蔵谷駅前の2号線が混雑して、乱横断が激しかったので、その件は分かっていると返事したと思う。
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝霧駅周辺、歩道橋の歩行者対策についても話が出たようだが。
N	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「混んできたらどうするのか」とか、「警備員をここに7、8人増やせ」といった話もでたが、「遊撃隊で対応する」と答えたと思う。 ・ 市の方も、市の職員で応援するという言葉があったと思う。
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・ Nさんと警察担当者の連絡体制確立ということで、無線機を貸し出すとなっているが。
N	<ul style="list-style-type: none"> ・ これを忘れていて、しまったと思っている。(事故当日)本部に1台残っていた。警察担当者と連絡するようになっていたが果たされなかった。
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞によると、歩道橋に大幅な増員を警察が市に求めたとなっているが、そういう事実があったのか。
Y2	<ul style="list-style-type: none"> ・ あれば控えているはず。

N	・それはちょっと記憶にない。なかったように思う。 指導があれば、私やY2はメモしている。
Q	・6月8日に明石営業所開設のFAXがある。その後6月26日に警察との検討会が行われているが、その間(明石市とは)電話等でのやりとりとなっているが。
N	・何度かやっている。6月11日に市役所も訪れている。この日に明石営業所の電話のテストに行っており、市役所の駐車場に車を入れ、夕方に訪れた。
Q	・6月26日にも警察との検討会をやっている。明石公園の話が中心だったと聞いているが。
N	・6月6日のときも明石公園だった。
Y2	・初めは全体的な話で、後、露店の話があった。
Q	・露店の配置図面を初めて見たのはいつか。
Y2	・6月6日で、資料では西側に露店という風になっていて、警察と市が歩道の幅等についての話をしていた。「一回見に行かないと」と言っていた。
N	・そういうことで翌日の7日に、露店商も呼んで見に行くと言っていた。
Q	・西側というのは空地のところまで、露店の線が入っていたのか。
Y2	・バーベキューの所の駐車場(臨時でない方)の通路の方だ。
Q	・6月26日の(警察との検討会の)警備計画書は6月9日の日付が入ったものか。
N	・それが、第1稿だと思う。 ・第1稿と第2稿は6月9日と後何日にできているのかは、パソコンが押収されているので分からない。
Q	・このとき警察から指導のあった内容を覚えているか。
N	・最初は明石公園の話、28号線の駐停車、通行止めの可能性もあるということ で規制車を用意できないかということ、あとは自転車、バイクで、書いているの を見ると公園部分が多い。
Q	・朝霧歩道橋に触れたやりとりは。
N	・警備計画では3名になっていたと思うが、これでは少ないという指摘が警察担当者からあった。
Q	・その答えは。
N	・遊撃隊で対応すると答えた。 市担当者からは、市の職員も応援していますという話があった。
【警備計画書】	
Q	・市の職員が参画していないところでの、電話を含めた警察とのやりとりはあるか。
N	・一度もない。それをすると行き過ぎになる。その場合は必ず、観光係長や市担当者に電話を入れて、一緒に明石署に行っていると思う。
Q	・このころのNさん自身のスケジュールは、過密だったのか。
N	・神戸のクロモリットも控えていたし、夏のいろいろなイベントが重なっていたので、結構過密だった。 ・警備計画なんかも指示を与えて作製していた。本来、(JRのダイヤの)00:00以降の記述なども変えたものがあるはず。それが変えていないのが、うちからも出

て行っている。

- Q
- ・指摘があるまで、気づかなかったのか。
- N
- ・事故後まで気づかなかった。文章なんかも変わっているものと思っていた。
- Q
- ・最終稿は残っているのか。
- N
- ・私の持っていたのは変えた分であったが、任意提出している。パソコンに残っているとと思うが、押収されている。
 - ・カウントダウンの警備計画は、私とジャパンメンテナンスのSで作っている。従って私の考えたそのままが出てくるので、同じようになってしまう。淡路花博の頃から作り出し、現地へSと何度も足を運んでいる。
- Q
- ・15,000人という数字の根拠は。
- N
- ・朝霧駅から降りてくるお客さんが、これくらいじゃないかと予想していた。
- Q
- ・カウントダウン時の主催者の来場予測は25,000人で、その内21,000人程がJRを使ってくるという予測になっている。その大半が朝霧歩道橋を利用するところから15,000人がでてきていると思う。
- N
- ・私は、明石の地の人がたくさん来られると思っていたし、カウントダウン、海峡まつりの時もそうだが、時間前、打ち上げる10分ほど前に松が丘や狩口などの近くから、どっと人がやってくる。今回もそれは注意するように何度も無線を発報しているが、みんな（他の警備会社）は聞いてないと言われる。うちの社員は聞いていたので安心したが、身内なので証拠にならない。

【警備会社への説明会】

- Q
- ・7月4日の警備会社への説明会の内容を覚えているか。
- N
- ・あまり記憶に残っていない。
- Q
- ・7月9日の警備説明会の資料は、7月9日版のものか。
- N
- ・本当は、4日にはできていたが、持っていかなかった。1回目の説明会のときに、既にできているのはおかしいと思われるからだ。その代わりに、市の方から配置図面などを出していただいた。
- Q
- ・できているといっても、自主警備連絡・調全体制図は空白か。
- N
- ・はい。本当に日にちに追われていた。その後各社何人だせるかということと、隊長、副隊長の名前を教えてくださいと各社にFAXでお願いした。
- Q
- ・この時の会議で、ニシカンの無線機を貸し出すとなっているが。
- N
- ・1警備区に出力4Wの無線機を1台貸し出した。遠方には、聞こえるようにとMCA無線機を貸し出した。だから聞こえないということはない。
- Q
- ・後、当日まではFAXで（各警備会社へ）導線図などを送ったということか。
- N
- ・遅れた理由としては、まだ市担当者が警察と露店について詰めていただいていたからだ。露店の位置がまだまだ後にずれ込んでいたと思う。
- Q
- ・それはどういうところからか。
- N
- ・歩道橋のところまで露店が来るのには大反対であった。できるだけ粘って欲しいとお願いしていた。

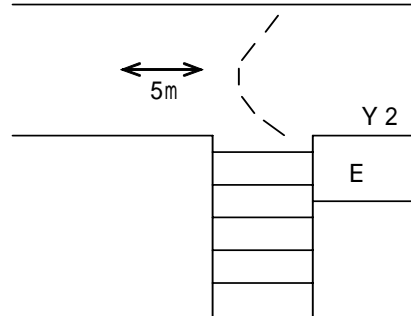
Q	・ 6月26日の警察との検討会の時に最終だと言ったが、まだ調整していたということか。
N	・ まだ、市担当者が粘っていたと思う。参加していないので分かりかねるが。 ・ 導線図をつくるので露店の位置図をもらったとき、これは駄目だと言った。
	【当日の様子】
Q	・ 当日の集合時間は。
N	・ 14:30に朝礼をしている。ただ、露店商を奥に入れられないために8:00から警備が開始された。
Q	・ 14:30からの朝礼は点呼等だけで、打ち合わせはなかったのか。
N	・ 混雑時の迂回誘導であるとか、分断入場とかの話はしたか。 ・ 話はしていると思う。ただ、その時に「分断」という言葉を使ったかどうかは分からない。 とにかく人が混んできたら迂回路の方へ、その方の広報は徹底してくれと言った。
Q	・ 迂回させるための機材とかの準備はできていなかったのか。
N	・ 市担当者から、カラーコーン、規制の看板、A型のバリを準備しているので探してもらってくださいと言われたので、無線でも流した。
Q	・ 看板というのは迂回路案内の看板か。どこが作ったのか。
N	・ それもあると思う。市がミワボシに作らせたと思う。
Q	・ それを探し切れていないのか。
N	・ 各自、無線で了解を取っているはず。なおかつ、カラーコーンとバーの余っているのは本部横にあると付け加えている。 最初に市担当者と打ち合わせをしたときに、確認を取るよう言われたので覚えている。
Q	・ それは、迂回誘導、分断入場のための資材ということか。
N	・ 分断のための資機材は用意していない。
Q	・ 分断のための資機材とは、どういうものか。
N	・ ロープとA型バリ、カラーコーンを置いてバーにするなどである。あの入場の中で、それを使うのは危険である。 カウントダウン時、ロープによる首吊りを何人も見ている。今回は一切使わないということで、お願いしていた。
Q	・ その時の迂回誘導というのは。
N	・ 警察の指示に基づいて、指導の基にやるのが分断である。 トラメガを持って、手を広げて広報するのが我々の分断である。なぜ止めないと、言われるが、我々には規制はできない。
Q	・ あらかじめ警察と打ち合わせをしておかないと、うまく連携できないのでは。
N	・ 今までいるんところで雑踏警備をしているが、その時は警察官の指示を仰いでやっていた。
Q	・ 臨機応変に指示を仰いで行う、というのが通常のやり方か。

N	<ul style="list-style-type: none"> ・ そうだ。どの隊が分からないが、近くに警察官がいないかと聞き、「居る」ということなので、「頼め」と無線で言った。 ・ カウントダウン時もそうだが、警察官が1人でも居てくれたらそれでよい。ルミナリエでも必ず警察官が居て、何かあれば助けてくれる。 ・ 我々のやり方は分断ではないと言われていたが、強制力がないのでできない。
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・ Nさんは、ずっと自主警備本部のテントに居たのか。
N	<ul style="list-style-type: none"> ・ 離れるのは、警察と打ち合わせするときだけ。トイレも行っていない。
【18:00～】	
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時系列で思い出されることを話して欲しい。
N	<ul style="list-style-type: none"> ・ スイカの無料配布が18時頃から始まった。その時に第1警備区から無線が入り、非常に混雑しているとのことだった。 ・ 第3警備区の警備会社の遊撃隊を行かせ、その後、本部遊撃隊2人も行かせた。
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・ スイカ配布混雑の事案に対する支援か。
N	<ul style="list-style-type: none"> ・ そうだ。 ・ 18:09に明石警察署地域官から階段と踊り場の所に人が溜まっていると言われ、遊撃隊5人を行かせた。
Y1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先にNが見て、遊撃隊を行かせた時に地域官が言っていた。Nは「今行かせた。」と言っていた。
N	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間は分からないが警察担当者からも、踊り場付近の滞留について指導があったと思う。 ・ この頃は、まだまだ橋の上の流れはあった。
【19:00～】	
N	<ul style="list-style-type: none"> ・ 19:00過ぎ、歩道橋が滞留していたので、帰るお客様に対して明石駅利用の案内を始めるといことをやっている。 ・ 既に遊撃隊は全員階段下と歩道橋に配置しており、この時、スイカをもらって帰るお客さんが多かったので、朝霧駅に向かっての右側通行で誘導するように指示した。 ・ (テントの)裏から見ると、歩道橋の東側を警備員がお客さんを1列で誘導しているのが見えた。いいぞ、その調子の無線を入れた。
Y1	<ul style="list-style-type: none"> ・ Y3ともう1人が橋の上に行き、広報を始め、少しずつ流れ出した。その段階で、N部長が18:45頃に橋の南側の広場あたりにまで行ってY3に直接誘導するように指示した。
N	<ul style="list-style-type: none"> ・ 19:25非常に混んでおり、渋滞しているとの無線が入った。既にその時は2次導線へ回す広報をやっていたと思うが。 ・ 無線の交信記録では、「朝霧駅ロータリー」で消しており、「より進入ストップ1分後解除」と私が書いている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・広報せよという無線は必ず入れていたと思う。 ・進入ストップの指示がなぜ1分後に解除かという、地域官に相談に行くと、我々からは橋の東側しか見られないが、本当に流れていた、階段の方を見ても流れていた。そういうことで、「自然の流れ、このままで行こう。」という指示を頂いた。
Q	
N	<ul style="list-style-type: none"> ・19:25の要請が1回目か。 ・そうだ。 ・その後は、19:45に花火が上がる。花火が上がるとお客さんの足が止まるので、前へ前へ進んでいただくよう広報しろと指示を与えた。 ・そのころ、第6警備区から国道28号の乱横断と不法駐車についての連絡があり、応援を求められたが、橋上が心配でそちらの隊での対応をお願いした。 ・その頃は両方の遊撃隊は橋上の方へ行っていた。
Y2	<ul style="list-style-type: none"> ・花火が始まったときに花火開始の連絡を全体に送って、(警備)強化の指示をしていた。 その時、Y3から、「橋の上の流れが止まった」と連絡があった。 ・花火が始まってすぐ、Nさんに見に行けと言われたので、階段下まで拡声器をもって妹と行った。 その時受けた指示の内容は、「橋にはもう上げるな、明石の方へ回せ」ということと、「花火が終われば規制を始めるから遊撃を集めて警察官と一緒にやってくれ」ということだった。 ・階段下にはY1隊長と別の警備員がいた。最初は立ちふさがるように立っていたが、退場する客から怒られ、その後分散して立っていた。 ・花火を見る人は西の方へ、退場する人は迂回、上にいる人には降りてください、と広報をした。
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・その広報を(客は)聞いてくれるのか。
Y2	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いてくれない。殴られた。妹はビールをかけられた。
Y1	<ul style="list-style-type: none"> ・特に、駅に向かう人は全然聞いてくれない。階段の途中までは何回か上がって、立ち止まっている人に直接声をかけたりもした。
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・階段下付近には、警察官はいなかったのか。
Y1	<ul style="list-style-type: none"> ・警察官は、露店の辺りには巡回でいたようだが、階段下付近にはいなかった。
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・花火開始直後からは、これ以上の混雑を防ぐための広報を始めたということか。
Y2	<ul style="list-style-type: none"> ・その前から歩道橋中央部にいたY4隊員から、これ以上あげないようにとの連絡があったし、Y4隊員はエレベーター前の警備員にもその旨を直接言ったようだ。
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーター前には、その警備員はずっといたのか。
Y2	<ul style="list-style-type: none"> ・そこにはずっと居たようだ。上がってくるものは仕方ないので、誘導していたと聞いた。
	<p>【20:00～】</p>
N	<ul style="list-style-type: none"> ・20:03 Y3隊長から、「陸橋上、人動かず。後から来るのをストップさせてくれ。」と聞いた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに裏のテントを見ると地域官がいたので、走って行き、二人で橋上を見ながら「止めましょうか。」とお願いした。 ・地域官の答えは「今、見に行かしている。」「情報を取っている。」という返事があり、そのままになっている。
Q	この時、もっと強気に押しおけばと後悔している。
N	・迷子の対応は多かったのか。
Q	・非常に多くて、時間を費やした。19時台から多かった。
N	・その後のことは。
	<ul style="list-style-type: none"> ・花火終了後、将棋倒しの事実確認を運営本部から聞いたので、第3警備区担当の警備会社のX隊長に無線で、橋上の警備員に確認するよう指示した。
Y2	<ul style="list-style-type: none"> 「ない」という連絡が入った。 ・階段の下でも花火が終わった後ぐらいに、「上でけんかが起きている」とか、「暴動が起きている」とか、上から私たちに叫んでいる人が居た。 ・花火が終われば規制すると事前に聞いていたが、こんな状態のできるのかと思った。
Y1	<ul style="list-style-type: none"> ・花火が終わる直前か直後にY3が倒れて、橋上なので警備だけではどうにもできないと思い、N部長の無線に割り込んで「警察官がいるので、警察官に接触します。応援を求めます。」と無線を入れ、直接警察官に、「警備員が中で倒れたので、応援願います。」と言った。
	救急車の要請はあるのかと聞かれ、本部に問い合わせると要請したとのことなので、「要請したが着くのはどちらか（駅の北か南か）分からない」と答えた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・その直後、お客さんから、「泣きながら上でけんかが起こっているからと携帯電話がつかってきたので、警察官に伝えてくれ」と言われた。
	私が直接、Y3の件と併せて話をしたら、無線を発報されたので、警察官に任せて迷子センターに向かった。
Q	・それは橋の近くにいた警察官に言ったのか。
Y1	<ul style="list-style-type: none"> ・道路側のエレベーターと露店の中間ぐらいに2人警察官が居た。内容は聞き取れなかったが、対応してくれていると思った。
Y2	<ul style="list-style-type: none"> ・45分か50分ぐらいに一方通行の規制のためか、事案への対応のためかわからないが、機動隊員がきて、階段下に盾でバリケードを作った。（6～7名）
N	<ul style="list-style-type: none"> その盾の前に警備員が配置して「一方通行です。上がれません。」と広報した。 ・50分より少し前だと思う。地域官と話をしていた歩道橋を見たときに、屋根の上に北側2人、南側2人が上がっているのを見つけたときだと思う。
	その時に、「レスキュー要請」と言った。たぶんそれを聞いた商工観光課長が、消防が詰めているテントに走ってくれたと思う。
	その時には機動隊も要請していた。
Y2	<ul style="list-style-type: none"> ・機動隊とは打ち合わせをしなかったが、「機動隊、到着しましたので、一方通行します」と無線連絡した。 ・別の機動隊が上がって行くのが見えたので、それに付いて上がった。
Q	・上がった機動隊員の数は。

- Y 2
- ・ 5～6名だと思う。踊り場では、病人を搬送するために盾でエレベーターホールを囲った。 は消防隊員と思われる人この時は将棋倒しは確認できなかった。
 - ・ 屋根の上へ、人の上に乗って若い男2人が上っているのを見て、そのことを無線で連絡した。(の位置、黒っぽい甚平を着ていた) すると要請済みの返答があった。
 - ・ の消防隊員(?)が降ろせと言ったので、拡声器を持った の機動隊員が「降りなさい」と言ったら人の上に2人が降って下りてきて の機動隊員に体当たりして、押し問答した後、階段を下りていった。屋根から下りたときにたくさんの悲鳴が出た。
 - ・ 前(の人)に続いて階段を下りるように広報した。
 - ・ そうすると歩道橋上から負傷者が抱えられて出てきた。
- Q
- Y 2
- ・ この時、踊り場に市の職員は居たか。
 - ・ 気付かなかった。エレベーター前には警備員が居た。
 - ・ 消防隊員だと思った人は、ベージュの作業服を着た体の大きな人だ。その人はエレベーター操作を警備員に指示していた。
- Q
- Y 2
- ・ 屋根の上には、どのようにして上っていくのか。
 - ・ 私が見たのは、人の上に立って上って行くところだ。
- Q
- N
- ・ これが記者会見の時の話か。
 - ・ そうだ。商工観光課長がメモ書きでよいと言ったのを、わざわざきれいにしたのが間違いだった。それと、まさかマスコミに配られているとは思わなかった。



【20:30 頃～】

- Y 2
- ・ 後から警備員に教えてもらったのだが、歩道橋の中央やや南側に居た Y 4 隊員が、花火が終わる直前ぐらいに「子供が窒息する。助けてくれ。」と申告を受けたので行こうとしたが動けない状態であった。周りの客からは、「警備員なんだから何とかしろ。」と罵声を浴びせられたり、殴られたりして負傷した。
 - ・ Y 4 隊員は、東側を伝って駅側へ進み、橋上にいた警備員の3名で駅から歩道橋への進入を自主的に阻止しようとしたが駄目であった。
 - ・ Y 4 隊員が朝霧駅前にいた5人の警察官に「中で大変なことになっている。子供が窒息しそうになっているから何とかして欲しい。助けてあげて欲しい。」と頼んだが、そのまま返答がなかった。
 - ・ 返答がなかったので、再度橋上に戻って行った。進むうちに海岸側で機動隊が救出作業をしているのが見えたので、警笛で通路の確保などにあたった。
 - ・ 機動隊員から、入場を止めろ、規制して欲しい、と頼まれて規制を始めた。しかし、なかなか規制できず、第3警備区担当の警備会社の隊員も呼んできて規制を続けた。

【誘導等について】

- Q ・ニシカンの記録によると、入場の制限と退場も西へ誘導することになっているが。
N ・混んできたときは一方通行にしようと、たぶん最初から警察官とも打ち合わせをしていると思う。
それと、花火が終了したら警察の応援と、迂回路の応援であるが、きちりと打ち合わせができているはずであるが、聞いていないと言われる。
- Q ・その打ち合わせというのは、いつやったのか。
Y2 ・6月26日のときも、規制という言葉はでなかったが、警察官がいなくてできないので協力してほしいと言っていた。
- Q ・6月26日以外にもあるか。
N ・当日だけ。何かあれば、言ってくださいとか、指示くださいと言っている。

【カウントダウンイベント】

- Q ・カウントダウンイベントの日付が変わる前後、歩道橋上が相当厳しい状況であったのは知っているか。
N ・私の見た目では、今回以上であった。
- Q ・直接見たのか。
N ・見ている。警備本部にいたが、何度か見に行き現場へ指示を出したりもした。
・階段の所も、今回以上のすさまじさがあった。
・遊撃隊を集めてイベント会社の人などの協力も得て、上らせないようにして、西へ誘導した。
- Q ・流入の規制はしたのか。
N ・明石のかたは、(花火が)始まる直前に一斉に着て、終わればすぐに帰るパターンであることからしていない。
- Q ・カウントダウンイベントの時に負傷者はいなかったのか。
N ・たぶん、いなかったと思う。転倒したのはあったと思うが。
- Q ・イベントが終わった後、歩道橋上に色々と遺留品があったようだが、見ているか。
N ・見ている。靴とかがあって、メチャクチャやったと思う。
- Q ・警察担当者は、カウントダウンイベント時の混雑状況の認識はあったと思うか。
N ・十分にあったと思う。

第3回委員会における聴き取り

日 時 平成 13(2001)年 9 月 2 日 (日) 9:30 ~ 12:40
場 所 明石市役所 8 0 4 会議室

(召致した参考人) 株式会社ニシカン 業務部長兼大阪支社長 N

- Q ・あなたの経歴を聞かせてほしいが、昭和 52 年に警備業界に入った。年齢にすると何歳くらいの頃か。
- N ・30 前半である。
- Q ・常駐警備から、交通、雑踏と経歴を書いているが、一番メインでやっていた仕事は何か。
- N ・近年は、雑踏警備である。
- Q ・今までで、一番大きな雑踏警備の経験は何か。
- N ・数え上げるとキリがないが、コンサート関係では、マドンナ、マイケルジャクソンなど、大きなものは、花博とかである。
- Q ・今度のような花火大会の雑踏警備の経験はあるか。
- N ・P L、枚方、臨空の花火大会もやった。
- Q ・話が飛ぶが、花火大会の前に、カウントダウンのイベントがあったが、それには貴方は、ニシカンの大阪支社長として対処したのか。
- N ・それと、大蔵海岸での責任者はジャパンメンテナンスだが、私は準責任者という立場である。
- Q ・ニシカンは下請けとして入っていたのか。
- N ・全部を仕切っていた。
- Q ・事故当日は、あなたはどこに居たのか。
- N ・南東のテントの所である。
- Q ・カウントダウンの時は、どこにいたのか。
- N ・もう少し西側の所であったと思う。
- Q ・その時も本部は設けられたのか。
- N ・本部はあった。パーベキューの東側ぐらいであると思う。
- Q ・立入禁止区域内に本部が置かれていたのか。
- N ・カウントダウンの時は、立入禁止区域内である。
- Q ・カウントダウンの時は、時間が長かったでしょ。夜中まであったのでしょ。
- ・警備に当たって、雑踏警備をどんな風に考えて、どんな風に対処しようとしたのか。多数の観客をどのようにさばくのか、どのようにして帰すのかといった計画は、どうであったか。
- N ・今回とそう変わっていない。
- Q ・そう変わっていないということは、今度の聴き取りを見ると、結局の所、人が混んできたら対処しよう、混んできたらその次に手を打とう警察に頼んで、という趣旨が聴き取りで出てきている。

N	・そうである。
Q	・それと同じと考えてよいのか。
N	・そうだ。
Q	・そうすると、事前に人がどれくらい来て、人の流れがどのようになるか、行く人帰る人が混ざって、団子になるという対策は事前には考えていなかったということか。
N	・打ち合わせの中では、色々な案が出ていた。
Q	・色々でたであろうが、最後はどのようにして仕切ろうとしたのか。
N	・その時は、警察に頼んで規制をかけるという腹しかない。
Q	・問題の歩道橋だが、カウントダウンの時にも、今回の時にも事前に現場をじっくり見ているか。
N	・見ている。
Q	・どんな風に思っていたか。
N	・私自身は、カウントダウンの時も同じだが、花火が上がる10分前くらいから客がドッと来る。それは、前の明石海峡まつりの時もいっしょだったが、そういう時にだけドッと客が来ることも分かっていたので、隊員には注意をしながらやっていたが、甘いところがあったと思う。
Q	・あなたの考えも、暴走族の方に頭が向いてたということはないのか。
N	・それはない。
Q	・3年前に明石海峡まつりの花火大会があったが、その時も貴方はタッチしているのか。
N	・タッチしている。半年間おりました。
Q	・その時は、問題の朝霧歩道橋はなかったでしょう。
N	・なかった。その時は踏み切りが一番問題であった。
Q	・あの歩道橋がどれくらいの間人がスムーズに渡っていけるのか、そのためにはどんな対策を立てればよいかということは、あまり考えなかったのか。
N	・考えてはいたが、予想していなかった客が、急遽増えたというのが現実である。
Q	・何人くらい集まってくると思っていたか。
N	・10万人は来ると思っていた。西の方から、北の方から来るというのは分かっていた。
Q	・一番たくさん客が来るルートはどこだと思っていたか。
N	・朝霧歩道橋だ。
Q	・朝霧歩道橋は、真っ直ぐ海岸に向かってかけられている。今度の花火大会の打ち上げ場所は、真正面に見えるわけだね。
N	・一番ロケーションのいいところである。
Q	・歩道橋の南端になればなるほど、良く見えるね。
N	・そうだ。エレベータの前だ。
Q	・10万人もの客の多くが歩道橋を渡って来るのであれば、花火が上がると皆立ち止まって、空を見ているでしょ。あまり動かないでしょ。その辺りに人が滞留するといった心配はしなかったのか。

N	・心配していた。それを排除せよということで、隊員に指示を与えていた。
Q	・それは、その日になってからでしょ。事前にはなかったのか。
N	・滞留する場所だとは分かっていたが、事前にはしていなかった。警備員1名だけつけていた状況だ。
Q	・警備員1名というのは、第3警備区担当の警備会社か。
N	・そうだ。
Q	・警備会社は、警察が入るイベントでは、最終的な計画の実施については、警察が責任を持つというか、全てが合意した上での実行になるでしょ。
	・当然、警備会社の計画に、警察がチェック入れて、おかしい所は指摘があるという風に考えてよいのか。
N	・そう考えている。
Q	・今回は、それがあったのか。
N	・警察との打ち合わせは2回しか出ていない。6月26日の最終打ち合わせであった。
Q	・警察とニシカンが花火大会の警備について、膝突き合わせてじっくりと計画を練ったことはあるのか。
N	・今回はなかった。
Q	・なぜないのか。
N	・お互いが分かっていたというところもあるが、その辺が手抜きであったと思っている。
Q	・あなたは2回警察との打ち合わせに出ているが、2回の中で、警察の方からの指摘で、大蔵谷駅周辺の乱横断に対すること、朝霧歩道橋は人が若者がたむろすることがよくあるから注意してほしいという指摘があったようだが、そのとおり間違いないか。
N	・間違いない。
Q	・そこで2点指摘があって、そこが問題なのだから、警察とニシカンでじっくり警備体制について相談する場はなかったのか。
N	・なかった。
Q	・歩道橋は海岸側からの階段は、狭くて入りにくい、駅側は広くて入りやすいと考えられないのか。
N	・その辺で、カウントダウンの時は、階段の所でひどいめにあった。
Q	・カウントダウンイベントの時に、ひどいめにあったと言っていたが、それはどのような状態であったのか。
N	・今回、私は橋の上の状況を見ていなかったが、カウントダウンの時は、階段の所にローピングをしていた。
	・階段を降りてすぐ西に、電気のキュービクルがあったが、階段からキュービクルの所までローピングをしていた。
	・客が立入禁止区域まで流れ込んできたので、そのロープに首が引っ掛かった人とかいた。
Q	・ローピングは何のためにしていたのか。
N	・海岸側に立入禁止区域を設けていた。

Q	・階段の上に上がらさないためか。
N	・階段を降りてきた所から、キュービクルの所まで立入禁止区域にしていた。
Q	・それでなぜ首に引っ掛かるのか。
N	・西から押された人がいた。それと、逆にそれがめんどくさい人は、立入禁止区域のバーやカラーコーンを乗り越えて来た人が南から階段の方へ上がろうとした。
Q	・降りてくる人とこれから上がろうとする人が、ぶつかり合ったということでしょ。
N	・ひどいめにあったというのは、貴方自身が暴行を受けたということか。
N	・そうだ。
Q	・カウントダウンの時にそういう経験をしたのであれば、今回も少なくともそういうことになるであろうと思ったか。
N	・思った。
Q	・警備の時に、カウントダウンの時のトラブルの反省を、今回に生かすという雰囲気はなかったのか。
N	・その辺で、私自身が申し訳ないと思うのはそこだ。もっと自分で引きずってでもやればよかったと思っている。
Q	・それと、もう一点、橋が公道であったということ、貴方は事前に知っていたか。
N	・知っていた。
Q	・カウントダウンの後に、こういう問題があったというようなことを、会社に報告したり、報告書をだしたりするシステムはないのか。
N	・ある。
Q	・それは行ったのか。
N	・はい。
Q	・会社及び業界で、末端の警備にあたる人は、何日か会社で訓練をする訳だが、責任者となっているような人の研修会や研究会といったものはあるのか。
N	・会社によってまちまちだが、我々を行っている。
N	・というのは、事前踏査もやるし、それ以前に自分で現場を見に行く努力をする隊員がいるので、そういう人が居てくれるのはうれしい。
Q	・警備計画書が、カウントダウンの写しではないかと言われているがその点はどうか。
N	・丸写しといったらおかしいが、実際スキャップ(警備計画の概要)を作ったのは、私とジャパンメンテナンスのSであったので、私自身の考え方といえるが、皆さんの手元に渡ったのが、最初の方だけで、修正後の計画書が渡っていないという結果になっている。
Q	・修正後の内容はどのようなものか。橋のことにに関して。
N	・橋のことではあまり変えていない。
Q	・具体的に、市の方からも、この点はどうかというように指摘というか、いっしょに練り上げたということがあまりないのではないか。
N	・そうだ。私も分かっていたので、暗黙のうちの了解があった。
Q	・警察との関係で、警察は警備計画を出せばチェックをするが、チェックする権限はあるのか。

- N
- ・それを提出して指導を仰ぐという立場である。
- Q
- ・ということは、警察に指導責任があるということか。
- N
- ・そうだ。
- Q
- ・警察についても、警備計画の責任があると考えてもいいのか。
- N
- ・そうだ。
- Q
- ・雑踏警備は主催者でやれと警察は言っているが、雑踏警備は主催者で、警察は暴走族対策をやるからと言われたことはあるか。 今聞いているのは、警察の方針として、イベントの警備はまず主催者が第一義的にやれということになっているのかということだ。
- N
- ・自主警備でやれよというのは、私たちはいつも聞いている言葉だが、やはり他の署では、間違いはこれはだめだというように指摘され、書き直してこれでどうかと持っていつている。